

2025 年 6 月 15 日（三位一体主日・聖霊降臨後第 1 主日、C 年）

牧師メッセージ

「父と子と聖霊によって」

（ヨハネによる福音書16:12-15）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音は主イエスの告別説教と言われる箇所的一部分です。主イエスは、ご自身が天に戻ることは悲しむべきことではない、と言われました。なぜなら、主イエスは私たちの居場所を天に備えるために昇天されるのであり、さらには、主イエスの昇天後に聖霊が降り、いつでも、「今」み言葉を聴く者に真理がもたらされるようになるからです。この直前の箇所で主イエスは、「実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。」と言っています。この言葉の通り、主イエスの昇天は、2,000 年後を生きるクリスチャンたちにも「今」、真理の霊による導きをもたらすためだったのです。今日の福音の一節です。

「父が持つておられるものはすべて、私のものである。だから、私は、『その方が私のものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」

「父」は神、「私」はイエス、「その方」は聖霊です。神のものはすべて御子イエスのもの、そして聖霊は御子のものを受けて「あなたがた」にすべてのことを告げるということです。

「その方は、勝手に語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げる」とあるように、聖霊は主イエスの言葉＝神の言葉を届けます。

真理、言葉、すべてが聖霊によって「あなたがた」に届けられると主イエスは言いました。「あなたがた」とは誰でしょうか。それはまず、「あなたがたは今に堪えられない。」と言われている弟子たちです。しかし、それだけではありません。私たちも含めた、「今」主イエスのみ言葉を聴いている者すべてが、「あなたがた」です。「今」み言葉を聴く私たちにも聖霊は働き、「その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」と主イエスが言われたことが、私たちにも実現するのです。

神はわたしたちを遠くから眺めているわけではありません。そうではなく、父と子と聖霊との聖なる三位一体の交わりのうちに私たちを導き続けます。この三位一体の神の有り様に、神の人への深い思い、愛が溢れています。クリスチャンは聖霊を通して「今」この愛を受け、「今」を歩んでゆくのです。